

## 13 章. 家族に関する妻の意識

(釜野さおり)

### 1. 全体像

家族や子どもに関する様々な考え方<sup>1</sup>に対する妻の賛否を、賛成割合<sup>2</sup>として整理したのが表 13-1 である。第 5 回調査の賛成割合は、「夫や妻は、自分達のことを多少犠牲にしても、子どものことを優先すべきだ」と「夫も家事や育児を平等に分担すべきだ」が 8 割台、「子どもが 3 才くらいまでは、母親は仕事を持たず育児に専念したほうがよい」と「家庭で重要なことがあったときは、父親が最終的に決定すべきだ」が 7 割台、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ」と「夫は、会社の仕事と家庭の用事が重なった時は、会社の仕事を優先すべきだ」が 6 割台、「年老いた親の介護は家族が担うべきだ」が 5 割台である。賛成割合が 5 割に満たないのは 4 割台の「結婚後は、夫は外で働き、妻は主婦業に専念すべきだ」と「年をとった親は子ども夫婦と一緒に暮らすべきだ」と「夫、妻とも同姓である必要はなく、別姓であってもよい」、3 割台の「夫婦は子どもを持ってはじめて社会的に認められる」、2 割台の「高齢者への経済的援助は、公的機関より家族が行うべきだ」である。以下、これらの項目を、性別役割に関する考え方、夫婦のあり方に関する考え方、老親への援助に関する考え方に分け、順にみていく。

表 13-1 調査回別にみた家族に関する考え方の各項目への賛成割合

	賛成割合				
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
夫や妻は、自分達のことを多少犠牲にしても、子どものことを優先すべきだ	73.3%	77.2%	78.1%	81.3%	86.9%
夫も家事や育児を平等に分担すべきだ	73.9%	76.3%	82.8%	82.4%	80.5%
子どもが3才くらいまでは、母親は仕事を持たず育児に専念したほうがよい	89.2%	90.8%	83.5%	86.7%	77.3%
家庭で重要なことがあったときは、父親が最終的に決定すべきだ		81.9%	75.5%	77.8%	71.6%
男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ	80.4%	77.2%	69.2%	75.2%	67.2%
夫は、会社の仕事と家庭の用事が重なった時は、会社の仕事を優先すべきだ	67.1%	68.5%	67.7%	67.8%	67.0%
年老いた親の介護は家族が担うべきだ		74.8%	66.2%	63.3%	56.7%
結婚後は、夫は外で働き、妻は主婦業に専念すべきだ	54.5%	54.3%	42.9%	47.7%	44.9%
年をとった親は子ども夫婦と一緒に暮らすべきだ	62.0%	50.3%	51.2%	50.8%	44.6%
夫、妻とも同姓である必要はなく、別姓であってもよい	35.4%	39.0%	46.0%	42.8%	41.5%
夫婦は子どもを持ってはじめて社会的に認められる	41.9%	41.1%	33.2%	35.8%	32.1%
高齢者への経済的援助は、公的機関より家族が行うべきだ	31.5%	30.7%	30.0%	27.1%	28.1%

<sup>1</sup> 家族や子どもに関する様々な考え方として本調査で尋ねたのは表 13-1 の 12 項目であり、このうち「家庭で重要なことがあったときは、父親が最終的に決定すべきだ」、「年老いた親の介護は家族が担うべきだ」は第 2 回調査から、それ以外は第 1 回調査から尋ねている。ただし、「年をとった親は子ども夫婦と一緒に暮らすべきだ」は、第 2 回調査までは「年をとった親は息子夫婦と暮らすべきだ」という表現であった。

<sup>2</sup> 家族や子どもに関する様々な考え方への賛否は「まったく賛成」、「どちらかといえば賛成」、「どちらかといえば反対」、「まったく反対」から 1 つ選択する形式で尋ねている。賛成割合とは、「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」を「賛成」、「どちらかといえば反対」と「まったく反対」を「反対」にまとめ、そのうち「賛成」の割合のことをいう。

## 2. 性別役割に関する考え方

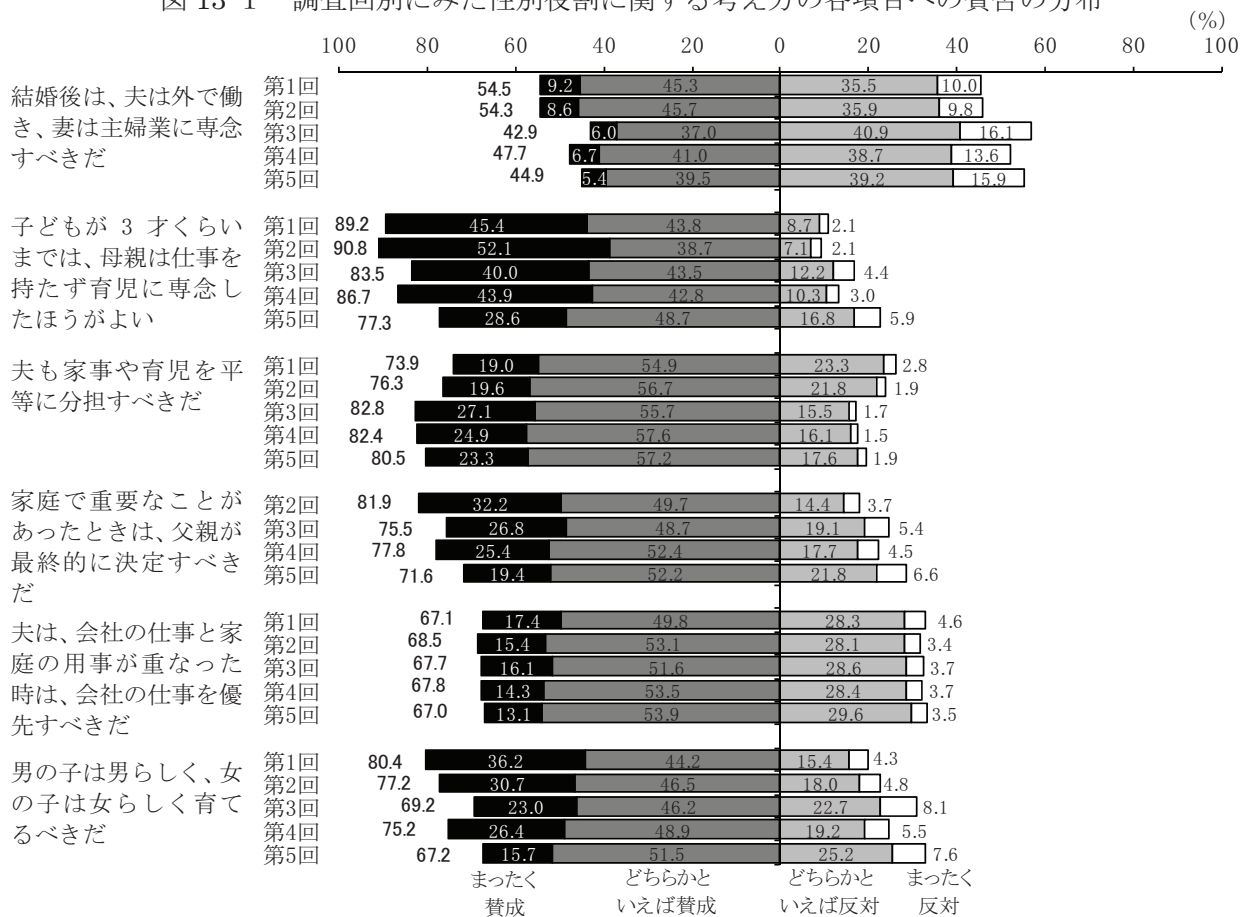
### (1) 全体の傾向

性別役割に関する考え方は、夫婦の役割分担や母親の役割、夫・父親の役割、子育ての方針の各面に関わる。これらに対する考え方は、従来の考え方<sup>3</sup>から変化する傾向が続いているものと、変化が落ち着く傾向にあるものがある（表 13-1、図 13-1）。

夫婦の役割分担に関する「結婚後は、夫は外で働き、妻は主婦業に専念すべきだ」の賛成割合は、第1回調査と第2回調査の54%台から第3回調査の42.9%に低下し、その後はほぼ横ばいで、第5回調査では44.9%であった。

母親の役割に関する「子どもが3才くらいまでは、母親は仕事を持たず育児に専念したほうがよい」の賛成割合は、第1回調査と第2回調査のほぼ90%から第3回調査と第4回調査では85%前後、第5回調査ではさらに低下して7割台の77.3%となった。

図 13-1 調査回別にみた性別役割に関する考え方の各項目への賛否の分布



注) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。ゴシック体で示した図中の数値は「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた「賛成」の値だが、四捨五入の関係で「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値と一致しない場合がある。

<sup>3</sup> 性別役割に関する考え方のうち反対が従来の考え方を表すのは「夫も家事や育児を平等に分担すべきだ」であり、他は賛成が従来の考え方を表す。

夫・父親の役割に関するものでは、「夫も家事や育児を平等に分担すべきだ」の賛成割合は第1回調査の73.9%から第3回調査の82.8%に増加したが、その後は横ばいで第5回調査は80.5%であった。それに対し、「家庭で重要なことがあったときは、父親が最終的に決定すべきだ」の賛成割合は設問が導入された第2回調査時点で81.9%と8割を超えていたが、その後は低下傾向にあり、第5回調査では71.6%となった。「夫は、会社の仕事と家庭の用事が重なった時は、会社の仕事を優先すべきだ」の賛成割合は、第1回調査からほぼ67%である。

子育ての方針に関する「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ」の賛成割合は、第1回調査の80.4%から第3回調査の69.2%へ低下し、第4回調査で再上昇して75.2%となったが、第5回調査では再び低下して67.2%となり、第3回調査の水準を下回った。

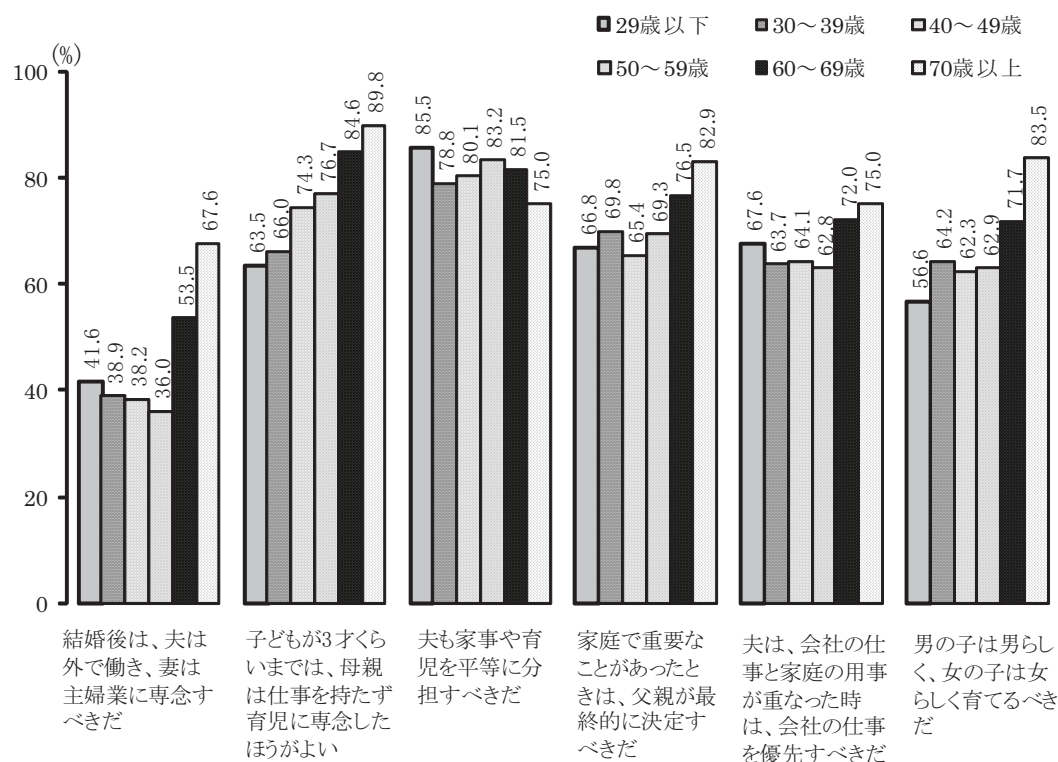
## (2)妻の年齢別にみた傾向

第5回調査について、性別役割に関する考え方を妻の年齢別に整理すると(図13-2)、一般に、年齢が上がるに従来的な考えを支持する妻の割合が高い傾向があり、とくに50歳代以下と60歳代以上との間に違いが表れているものが多い。

夫婦の役割分担に関する「結婚後は、夫は外で働き、妻は主婦業に専念すべきだ」については、50歳代までは賛成割合が36.0~41.6%であるが、「60~69歳」では53.5%、「70歳以上」では67.6%である。

母親の役割に関する「子どもが3才くらいまでは、母親は仕事を持たず育児に専念したほうがよい」への賛成割合は年齢とともに上昇し、最も低い「29歳以下」(63.5%)と最も高い「70歳以上」(89.8%)には26.3ポイントの差がある。

図13-2 妻の年齢別にみた性別役割に関する各項目への賛成割合(第5回調査)



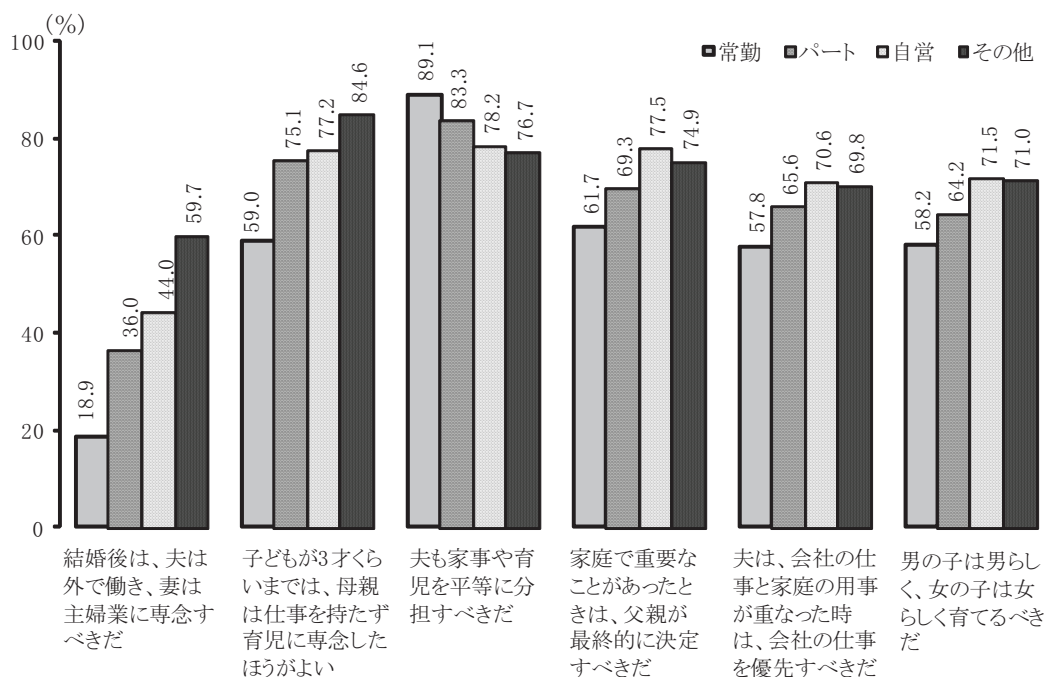
夫・父親の役割に関する「夫も家事や育児を平等に分担すべきだ」の賛成割合については、年齢による違いが比較的小さく、いずれの年齢でも賛成割合は80%前後である。「家庭で重要なことがあったときは、父親が最終的に決定すべきだ」の賛成割合は、50歳代までは6割台であるが、「60～69歳」は76.5%、「70歳以上」は82.9%で、最も低い「40～49歳」(65.4%)と「70歳以上」との差は17.5ポイントである。「夫は、会社の仕事と家庭の用事が重なった時は、会社の仕事を優先すべきだ」の賛成割合は、50歳代までは6割台であるが、60歳代以上は7割を超え、賛成割合の最も低い「50～59歳」(62.8%)と最も高い「70歳以上」(75.0%)との差は12.2ポイントである。

子育ての方針に関する「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ」の賛成割合は年齢とともに高くなる傾向にあり、「20～29歳」(56.6%)と「70歳以上」(83.5%)には26.9ポイントの差がある。

### (3)妻の従業上の地位別にみた傾向

図13-3は、第5回調査の性別役割に関する考え方を妻の従業上の地位別に整理したものである。従来の性別役割に関する考え方を支持する割合は、総じて「常勤」で最も低く、「パート」がそれに続く。それに対し、「自営」と専業主婦が大多数である「その他」は、従来の性別役割に関する考え方を支持する割合が相対的に高い。こうした傾向は、とくに夫婦の役割分担や母親の役割に関する考え方で顕著である。

図13-3 妻の従業上の地位別にみた性別役割に関する各項目への賛成割合（第5回調査）



注) 自営には家族従業者を含む。その他の大多数は仕事を持たないいわゆる専業主婦である。

夫婦の役割分担に関する「結婚後は、夫は外で働き、妻は主婦業に専念すべきだ」では、働き方による違いが大きく、賛成割合は「常勤」の 18.9%に対し、「パート」で 36.0%、「自営」で 44.0%、「その他」で 59.7%である。「常勤」と「その他」の賛成割合の差は 40 ポイントを超える。

母親の役割に関する「子どもが3才くらいまでは、母親は仕事を持たず育児に専念したほうがよい」でも妻の働き方による違いが顕著にみられ、賛成割合は最も低い「常勤」で 59.0%、次いで「パート」の 75.1%、「自営」の 77.2%、「その他」では8割を超えて 84.6%である。「常勤」と「その他」の賛成割合の差は 25.6 ポイントある。

夫・父親の役割に関するもののうち、「夫も家事や育児を平等に分担すべきだ」では、この意見に賛成する方が従来の性別役割を支持しないことを意味するが、賛成割合は、「常勤」ではほぼ9割の 89.1%、「パート」で 83.3%、「自営」と「その他」はいずれも7割台で、それぞれ 78.2%と 76.7%である。「家庭で重要なことがあったときは、父親が最終的に決定すべきだ」への賛成割合は、「常勤」で最も低く 61.7%、次いで「パート」の 69.3%、「その他」の 74.9%、「自営」の 77.5%の順である。「夫は、会社の仕事と家庭の用事が重なった時は、会社の仕事を優先すべきだ」への賛成割合は、「常勤」で 57.8%に対し、「パート」では 65.6%、「自営」(70.6%)と「その他」(69.8%)は7割前後である。

子育ての方針に関する「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ」への賛成割合は「常勤」で6割未満の 58.2%、「パート」で 64.2%、「自営」(71.5%)と「その他」(71.0%)は7割に達する。

### 3. 夫婦のあり方に関する考え方

#### (1)全体の傾向

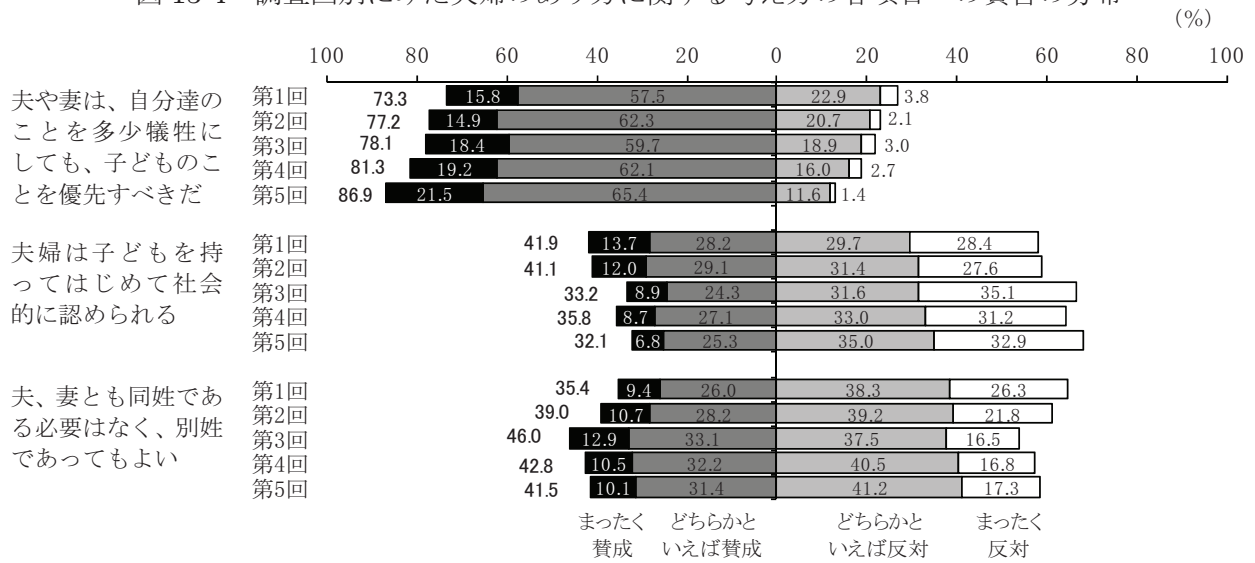
夫婦のあり方に関する考え方には、親役割や子ども、姓に関するものが含まれる。これらに対する考え方は、従来の考え方<sup>4</sup>から変化する傾向が続いているものと、変化が落ち着く傾向にあるものがある(表 13-1、図 13-4)。親役割に関する「夫や妻は、自分達のことを多少犠牲にしても、子どものことを優先すべきだ」は、第1回調査の時点ですでに賛成割合が7割を超え(73.3%)、その後も一貫して増加し第5回調査では 86.9%に達した。

子どもに関する「夫婦は子どもを持ってはじめて社会的に認められる」の賛成割合は、第1回調査と第2回調査の 41%台から第3回調査の 33.2%に低下し、その後はほぼ横ばいで、第5回調査は 32.1%であった。

姓に関する「夫、妻とも同姓である必要はなく、別姓であってもよい」への賛成割合は増加傾向にあり、第1回調査の 35.4%から第3回調査で 46.0%まで増加し、その後は4割程度である(第4回調査は 42.8%、第5回調査は 41.5%)。

<sup>4</sup> 夫婦のあり方に関する考え方のうち、反対が従来の考え方を表すのは「夫や妻は、自分達のことを多少犠牲にしても、子どものことを優先すべきだ」、「夫、妻とも同姓である必要はなく、別姓であってもよい」であり、「夫婦は子どもを持ってはじめて社会的に認められる」は賛成が従来の考え方を表す。

図 13-4 調査回別にみた夫婦のあり方に関する考え方の各項目への賛否の分布 (%)

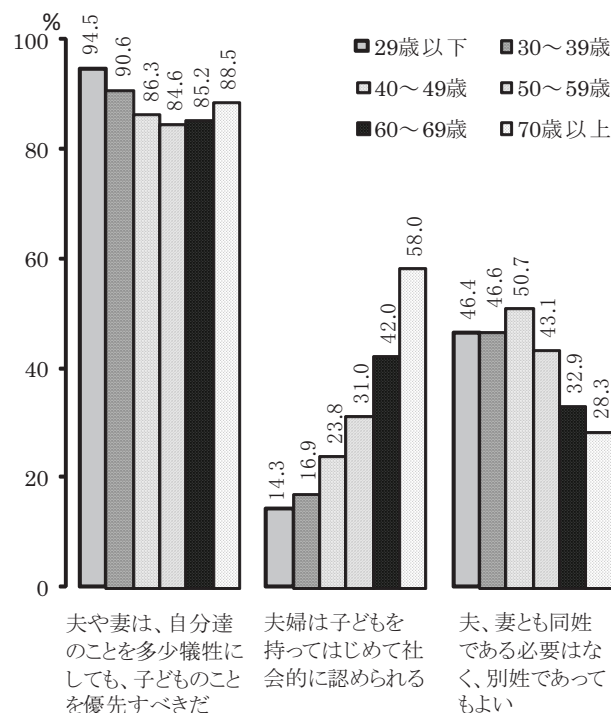


注) 四捨五入の関係で割合の合計が 100 にならない場合がある。ゴシック体で示した図中の数値は「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた「賛成」の値だが、四捨五入の関係で「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値と一致しない場合がある。

(2)妻の年齢別にみた傾向

第5回調査について、夫婦のあり方に関する考え方を妻の年齢別に整理すると(図 13-5)、親役割に関する「夫や妻は、自分達のことを多少犠牲にしても、子どものことを優先すべきだ」の賛成割合は「29 歳以下」(94.5%) から「50~59 歳」(84.6%) まで年齢とともに低下し、その後は「70 歳以上」(88.5%) まで上昇する。賛成割合の最も高い「29 歳以下」と最も低い「50~59 歳」との差は 9.9 ポイントである。

図 13-5 妻の年齢別にみた夫婦のあり方に関する考え方の各項目への賛成割合 (第 5 回調査)



子どもに関する「夫婦は子どもを持つてはじめて社会的に認められる」の賛成割合は年齢とともに上昇し、「29歳以下」（14.3%）と「70歳以上」（58.0%）では43.7ポイントの差がある。

姓に関する「夫、妻とも同姓である必要はなく、別姓であってもよい」の賛成割合は、「60～69歳」と「70歳以上」で低く、それぞれ32.9%と28.3%である。50歳代までの中では「40～49歳」の50.7%を除けば、どの年齢も45%前後である。

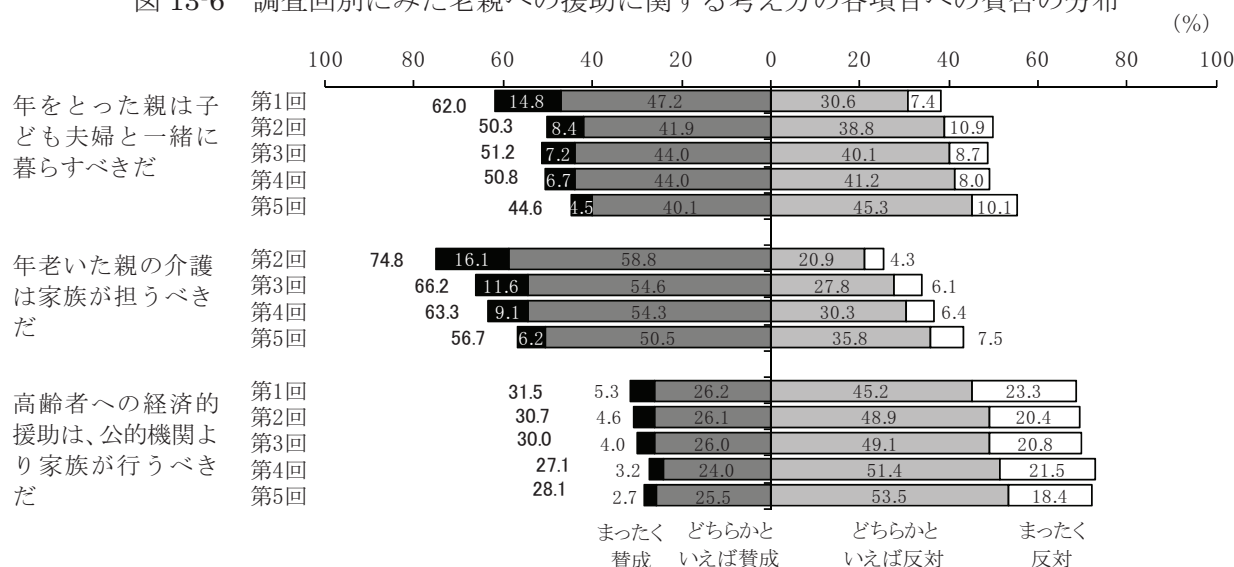
#### 4. 老親への援助に関する考え方

##### (1) 全体の傾向

老親への援助に関する考え方は親との同居、親への介護、高齢者の経済支援の各面に関わる。これらの考え方は、高齢者の経済支援に関するものを除き、従来の考え方<sup>5</sup>から変化する傾向が続いている（表13-1、図13-6）。親との同居に関する「年をとった親は子ども夫婦と一緒に暮らすべきだ」の賛成割合は第1回調査では62.0%であったものが、第2回調査で50.3%まで低下し、第4回調査まで横ばいで推移した後、第5回調査で再び低下した（44.6%）。

親への介護に関する「年老いた親の介護は家族が担うべきだ」の賛成割合は、設問が用いられるようになった第2回調査でほぼ4分の3に相当する74.8%であったが、第3回調査で66.2%へ低下し、第4回調査では横ばい（63.3%）だったものの、第5回調査では56.7%まで低下した。

図13-6 調査回別にみた老親への援助に関する考え方の各項目への賛否の分布



注) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。ゴシック体で示した図中の数値は「まったく賛成」と「どちらかと いえば賛成」を合わせた「賛成」の値だが、四捨五入の関係で「まったく賛成」と「どちらかと いえば賛成」の合計値と一致しない場合がある。

<sup>5</sup> 老親への援助に関する考え方は、いずれも賛成が従来の考え方を表す。

高齢者の経済支援に関する「高齢者への経済的援助は、公的機関より家族が行うべきだ」は第1回調査の時点で賛成割合が31.5%と低く、その後の変化は小さいが、第4回調査以降は賛成割合が3割を僅かに下回るようになり、第5回調査では28.1%であった。

## (2)妻の年齢別にみた傾向

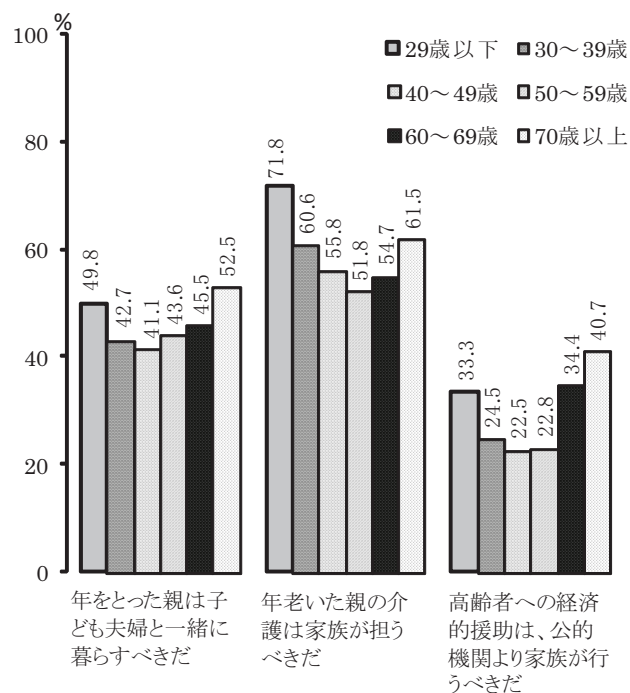
第5回調査について、老親への援助に関する考え方を妻の年齢別に整理すると(図13-7)、賛成、すなわち家族が担い手になるという考えを支持する割合は、全般に40歳代と50歳代で低く、20歳代と60歳代以上で高い傾向がある。

親との同居に関する「年をとった親は子ども夫婦と一緒に暮らすべきだ」の賛成割合は年齢による違いが比較的小さく、最も高い「70歳以上」(52.5%)と最も低い「40～49歳」(41.1%)の差は11.4ポイントである。

親への介護に関する「年老いた親の介護は家族が担うべきだ」の賛成割合は、最も高い「29歳以下」(71.8%)から「50～59歳」(51.8%)まで低下し、「70歳以上」(61.5%)にかけて再び上昇する。

高齢者の経済支援に関する「高齢者への経済的援助は、公的機関より家族が行うべきだ」の賛成割合は、「70歳以上」が40.7%で最も高く、「60～69歳」と「20～29歳」が34%程度でほぼ同じであり、30～50歳代が23%前後で低い。

図13-7 妻の年齢別にみた老親への援助に関する考え方の各項目への賛成割合(第5回調査)





<参考資料>

図13-1 調査回別にみた性別役割に関する考え方の各項目への賛否の分布 (%)

項目	調査回	ケース数	賛成	まったく賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	まったく反対
結婚後は、夫は外で働き、妻は主婦業に専念すべきだ	第1回	5,719	54.5	9.2	45.3	35.5	10.0
	第2回	6,389	54.3	8.6	45.7	35.9	9.8
	第3回	6,579	42.9	6.0	37.0	40.9	16.1
	第4回	6,271	47.7	6.7	41.0	38.7	13.6
	第5回	5,807	44.9	5.4	39.5	39.2	15.9
子どもが3才くらいまでは、母親は仕事を持たず育児に専念したほうがよい	第1回	5,773	89.2	45.4	43.8	8.7	2.1
	第2回	6,398	90.8	52.1	38.7	7.1	2.1
	第3回	6,622	83.5	40.0	43.5	12.2	4.4
	第4回	6,291	86.7	43.9	42.8	10.3	3.0
	第5回	5,831	77.3	28.6	48.7	16.8	5.9
夫も家事や育児を平等に分担すべきだ	第1回	5,719	73.9	19.0	54.9	23.3	2.8
	第2回	6,373	76.3	19.6	56.7	21.8	1.9
	第3回	6,583	82.8	27.1	55.7	15.5	1.7
	第4回	6,268	82.4	24.9	57.6	16.1	1.5
	第5回	5,803	80.5	23.3	57.2	17.6	1.9
家庭で重要なことがあったときは、父親が最終的に決定すべきだ	第2回	6,362	81.9	32.2	49.7	14.4	3.7
	第3回	6,556	75.5	26.8	48.7	19.1	5.4
	第4回	6,258	77.8	25.4	52.4	17.7	4.5
	第5回	5,805	71.6	19.4	52.2	21.8	6.6
	夫は、会社の仕事と家庭の用事が重なった時は、会社の仕事を優先すべきだ	第1回	5,663	67.1	17.4	49.8	28.3
第2回		6,277	68.5	15.4	53.1	28.1	3.4
第3回		6,521	67.7	16.1	51.6	28.6	3.7
第4回		6,212	67.8	14.3	53.5	28.4	3.7
第5回		5,743	67.0	13.1	53.9	29.6	3.5
男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ	第1回	5,737	80.4	36.2	44.2	15.4	4.3
	第2回	6,380	77.2	30.7	46.5	18.0	4.8
	第3回	6,577	69.2	23.0	46.2	22.7	8.1
	第4回	6,273	75.2	26.4	48.9	19.2	5.5
	第5回	5,796	67.2	15.7	51.5	25.2	7.6

注) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の値を合わせたのが「賛成」の値だが、四捨五入の関係で「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値と一致しない場合がある。

図13-2 妻の年齢別にみた性別役割に関する各項目への賛成割合(第5回調査)

妻の年齢	結婚後は、夫は外で働き、妻は主婦業に専念すべきだ		子どもが3才くらいまでは、母親は仕事を持たず育児に専念したほうがよい		夫も家事や育児を平等に分担すべきだ		家庭で重要なことがあったときは、父親が最終的に決定すべきだ		夫は、会社の仕事と家庭の用事が重なった時は、会社の仕事を優先すべきだ		男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ	
	ケース数	賛成 (%)	ケース数	賛成 (%)	ケース数	賛成 (%)	ケース数	賛成 (%)	ケース数	賛成 (%)	ケース数	賛成 (%)
29歳以下	221	41.6	219	63.5	221	85.5	220	66.8	213	67.6	221	56.6
30～39歳	936	38.9	938	66.0	933	78.8	937	69.8	933	63.7	938	64.2
40～49歳	1,346	38.2	1,344	74.3	1,342	80.1	1,343	65.4	1,333	64.1	1,341	62.3
50～59歳	1,303	36.0	1,307	76.7	1,302	83.2	1,301	69.3	1,280	62.8	1,298	62.9
60～69歳	1,316	53.5	1,334	84.6	1,322	81.5	1,319	76.5	1,309	72.0	1,319	71.7
70歳以上	685	67.6	689	89.8	683	75.0	685	82.9	675	75.0	679	83.5

図13-3 妻の従業上の地位別にみた性別役割に関する各項目への賛成割合(第5回調査)

妻の従業上の地位	結婚後は、夫は外で働き、妻は主婦業に専念すべきだ		子どもが3才くらいまでは、母親は仕事を持たず育児に専念したほうがよい		夫も家事や育児を平等に分担すべきだ		家庭で重要なことがあったときは、父親が最終的に決定すべきだ		夫は、会社の仕事と家庭の用事が重なった時は、会社の仕事を優先すべきだ		男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ	
	ケース数	賛成(%)	ケース数	賛成(%)	ケース数	賛成(%)	ケース数	賛成(%)	ケース数	賛成(%)	ケース数	賛成(%)
常勤	822	18.9	821	59.0	814	89.1	818	61.7	816	57.8	820	58.2
パート	1,718	36.0	1,715	75.1	1,722	83.3	1,721	69.3	1,694	65.6	1,717	64.2
自営	654	44.0	658	77.2	655	78.2	658	77.5	649	70.6	655	71.5
その他	2,468	59.7	2,489	84.6	2,462	76.7	2,462	74.9	2,437	69.8	2,457	71.0

注) 自営には家族従業者を含む。その他の大多数は仕事を持たないいわゆる専業主婦である。

図13-4 調査回別にみた夫婦のあり方に関する考え方の各項目への賛否の分布 (%)

項目	調査回	ケース数	賛成	まったく賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	まったく反対
夫や妻は、自分達のことを多少犠牲にしても、子どものことを優先すべきだ	第1回	5,679	73.3	15.8	57.5	22.9	3.8
	第2回	6,324	77.2	14.9	62.3	20.7	2.1
	第3回	6,570	78.1	18.4	59.7	18.9	3.0
	第4回	6,258	81.3	19.2	62.1	16.0	2.7
	第5回	5,831	86.9	21.5	65.4	11.6	1.4
夫婦は子どもを持ってはじめて社会的に認められる	第1回	5,654	41.9	13.7	28.2	29.7	28.4
	第2回	6,254	41.1	12.0	29.1	31.4	27.6
	第3回	6,479	33.2	8.9	24.3	31.6	35.1
	第4回	6,215	35.8	8.7	27.1	33.0	31.2
	第5回	5,735	32.1	6.8	25.3	35.0	32.9
夫、妻とも同姓である必要はなく、別姓であってもよい	第1回	5,658	35.4	9.4	26.0	38.3	26.3
	第2回	6,363	39.0	10.7	28.2	39.2	21.8
	第3回	6,530	46.0	12.9	33.1	37.5	16.5
	第4回	6,201	42.8	10.5	32.2	40.5	16.8
	第5回	5,761	41.5	10.1	31.4	41.2	17.3

注) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の値を合わせたのが「賛成」の値だが、四捨五入の関係で「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値と一致しない場合がある。

図13-5 年齢別にみた夫婦のあり方に関する考え方の各項目への賛成割合(第5回調査)

妻の年齢	夫や妻は、自分達のことを多少犠牲にしても、子どものことを優先すべきだ		夫婦は子どもを持ってはじめて社会的に認められる		夫、妻とも同姓である必要はなく、別姓であってもよい	
	ケース数	賛成(%)	ケース数	賛成(%)	ケース数	賛成(%)
29歳以下	220	94.5	217	14.3	220	46.4
30～39歳	939	90.6	928	16.9	929	46.6
40～49歳	1,347	86.3	1,327	23.8	1,334	50.7
50～59歳	1,316	84.6	1,290	31.0	1,296	43.1
60～69歳	1,323	85.2	1,309	42.0	1,307	32.9
70歳以上	686	88.5	664	58.0	675	28.3

図13-6 調査回別にみた老親への援助に関する考え方の各項目への賛否の分布 (%)

項目	調査回	ケース数	賛成	まったく賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	まったく反対
年をとった親は子ども夫婦と一緒に暮らすべきだ	第1回	5,691	62.0	14.8	47.2	30.6	7.4
	第2回	6,320	50.3	8.4	41.9	38.8	10.9
	第3回	6,527	51.2	7.2	44.0	40.1	8.7
	第4回	6,238	50.8	6.7	44.0	41.2	8.0
	第5回	5,752	44.6	4.5	40.1	45.3	10.1
年老いた親の介護は家族が担うべきだ	第2回	6,354	74.8	16.1	58.8	20.9	4.3
	第3回	6,524	66.2	11.6	54.6	27.8	6.1
	第4回	6,259	63.3	9.1	54.3	30.3	6.4
	第5回	5,753	56.7	6.2	50.5	35.8	7.5
高齢者への経済的援助は、公的機関より家族が行うべきだ	第1回	5,666	31.5	5.3	26.2	45.2	23.3
	第2回	6,307	30.7	4.6	26.1	48.9	20.4
	第3回	6,502	30.0	4.0	26.0	49.1	20.8
	第4回	6,257	27.1	3.2	24.0	51.4	21.5
	第5回	5,765	28.1	2.7	25.5	53.5	18.4

注) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の値を合わせたのが「賛成」の値だが、四捨五入の関係で「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値と一致しない場合がある。

図13-7 妻の年齢別にみた老親への援助に関する考え方の各項目への賛成割合(第5回調査)

妻の年齢	年をとった親は子ども夫婦と一緒に暮らすべきだ		年老いた親の介護は家族が担うべきだ		高齢者への経済的援助は、公的機関より家族が行うべきだ	
	ケース数	賛成 (%)	ケース数	賛成 (%)	ケース数	賛成 (%)
29歳以下	215	49.8	216	71.8	219	33.3
30～39歳	929	42.7	931	60.6	927	24.5
40～49歳	1,330	41.1	1,333	55.8	1,336	22.5
50～59歳	1,288	43.6	1,287	51.8	1,293	22.8
60～69歳	1,314	45.5	1,303	54.7	1,310	34.4
70歳以上	676	52.5	683	61.5	680	40.7

## 14 章. 家族の範囲に関する妻の意識

(釜野さおり)

近い親族（親、娘や息子、きょうだいなど）について、一般的に家族の一員とみなしうるかどうかについての妻の考えを整理したのが表 14-1 である。第 5 回調査で、妻が「同居・別居に関わらず家族である」と考える割合をみると、8 割を超えているのは、「あなたの夫」（87.4%）と「20 歳以上の未婚の子」（84.5%）、7 割台が「あなたの親」（78.4%）、「結婚している息子」（73.2%）、「結婚している娘」（71.0%）、「夫の親」（70.1%）、6 割台が「息子の子ども」（68.7%）、「娘の子ども」（66.3%）、「息子の妻」（65.2%）、「娘の夫」（62.2%）、「あなたの祖父母」（60.1%）、5 割台が「あなたのきょうだい」（56.1%）、「夫の祖父母」（53.1%）、4 割台が「夫のきょうだい」（42.7%）である。

第 1 回調査から第 5 回調査までの変化をみると（図 14-1）、どの親族についても「同居・別居にかかわらず家族である」と考える妻の割合が継続的に増加している。ただし「20 歳以上の未婚の子」については第 1 回調査では 83.0%、第 2 回調査では 76.2%である。「あなたの親」と「夫の親」、「妻のきょうだい」、「夫のきょうだい」、「結婚している娘」、「娘の夫」、「娘の子ども」、「あなたの祖父母」、「夫の祖父母」については、「同居・別居に関わらず家族である」と考える割合が 20 年の間に 20 ポイント以上増加し、このうち 10 ポイント以上の増加が第 1 回調査と第 2 回調査の間でみられ、その後の増加は比較的緩やかである。一方、「結婚している息子」、「息子の妻」、「息子の子ども」についてもそれぞれ 20.0 ポイント、14.2 ポイント、17.7 ポイントの増加がみられるが、過去 5 回の調査を通して徐々に増加してきている。「結婚している息子」・「息子の妻」・「息子の子ども」と「結婚している娘」・「娘の夫」・「娘の子ども」とを比べると、第 1 回調査の時点では後者が 10 ポイント以上低かったが、第 2 回調査で両者の差は大きく縮まり、第 5 回調査では両者の差は 3 ポイント前後である。

表 14-1 調査回別にみた「同居・別居にかかわらず家族である」と回答する割合 (%)

親族	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
あなたの夫					87.4
あなたの親 <sup>1)</sup>	44.5	69.7	67.8	78.2	78.4
夫の親	42.8	64.8	65.5	71.2	70.1
あなたのきょうだい <sup>2)</sup>	25.7	38.6	41.3	51.1	56.1
夫のきょうだい	20.0	30.0	35.0	38.9	42.7
20歳以上の未婚の子	83.0	76.2	77.8	79.9	84.5
結婚している息子 <sup>3)</sup>	53.2	59.5	63.7	68.6	73.2
結婚している娘 <sup>4)</sup>	35.0	55.1	60.6	66.2	71.0
息子の妻 <sup>5)</sup>	51.0	54.2	58.8	63.8	65.2
娘の夫	31.8	49.6	55.4	60.1	62.2
息子の子ども <sup>6)</sup>	51.0	54.5	59.2	65.1	68.7
娘の子ども <sup>7)</sup>	33.2	51.0	56.3	62.3	66.3
あなたの祖父母	29.3	43.3	45.0	56.7	60.1
夫の祖父母	29.1	40.2	43.1	51.3	53.1

注 1) 第 3 回調査では「あなた(妻)の親」。

注 2) 第 3 回調査では「あなた(妻)のきょうだい」。

注 3) 第 1 回調査では「結婚している長男」。

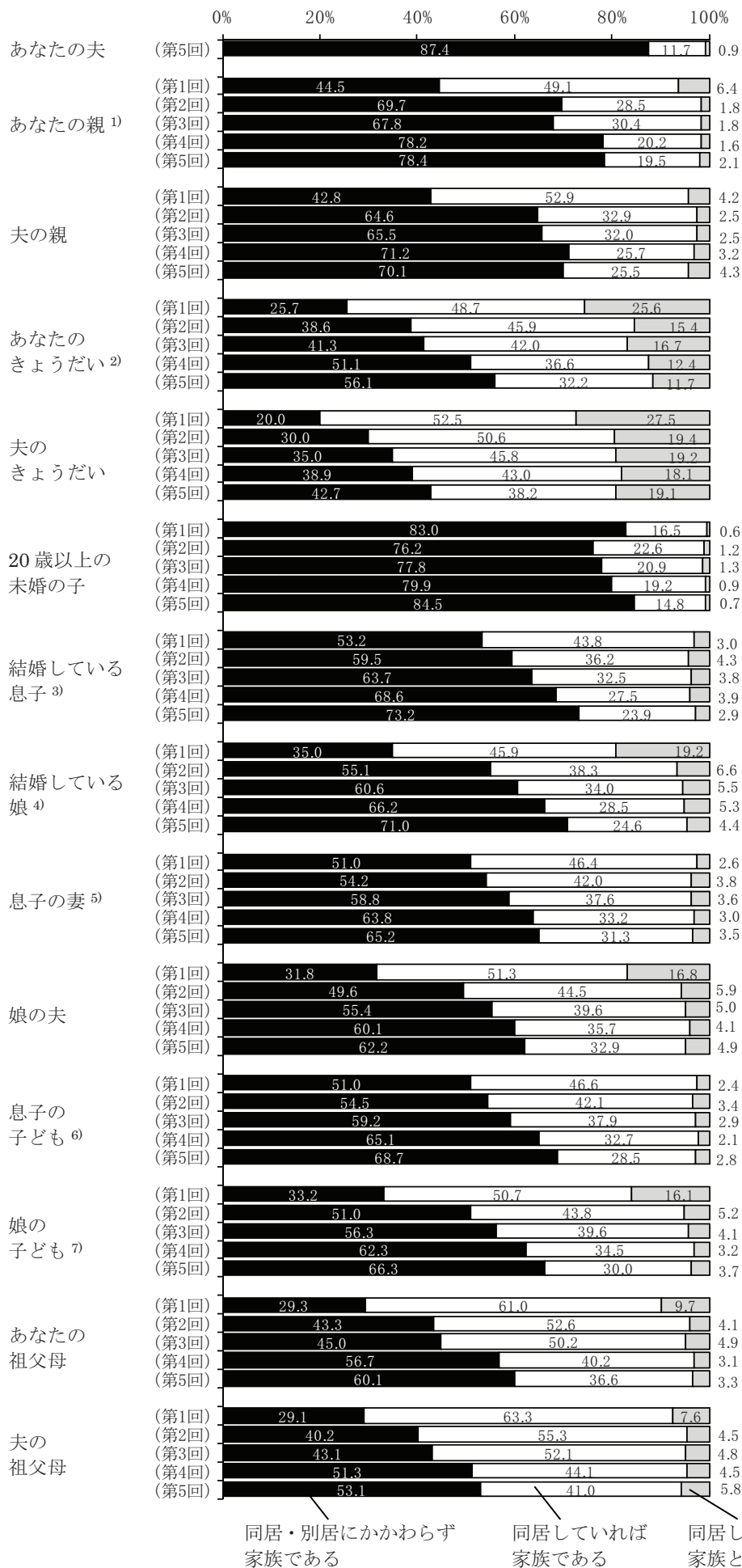
注 4) 第 1 回調査では「結婚して姓が変わった娘」。

注 5) 第 1 回調査では「長男の妻」。

注 6) 第 1 回調査では「長男の子ども」。

注 7) 第 1 回調査では「娘の子」。

図 14-1 調査回別にみた、各親族に対する妻の家族認識の割合



注1) 第3回調査では「あなた(妻)の親」。  
 注2) 第3回調査では「あなた(妻)のきょうだい」。  
 注3) 第1回調査では「結婚している長男」。  
 注4) 第1回調査では「結婚して姓が変わった娘」。  
 注5) 第1回調査では「長男の妻」。  
 注6) 第1回調査では「長男の子ども」。  
 注7) 第1回調査では「娘の子」。  
 注8) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならないことがある。

第5回調査について、各親族を「同居・別居にかかわらず家族である」と考える割合を妻の年齢別に整理すると、どの親族についても年齢が低い方が割合は高い。図14-2に夫や親、きょうだい、祖父母について、図14-3に子どもやその配偶者、孫についての結果を示す。

図14-2 妻の年齢別にみた各親族を「同居・別居にかかわらず家族である」と回答する割合(夫、親、きょうだい、祖父母)(第5回調査)

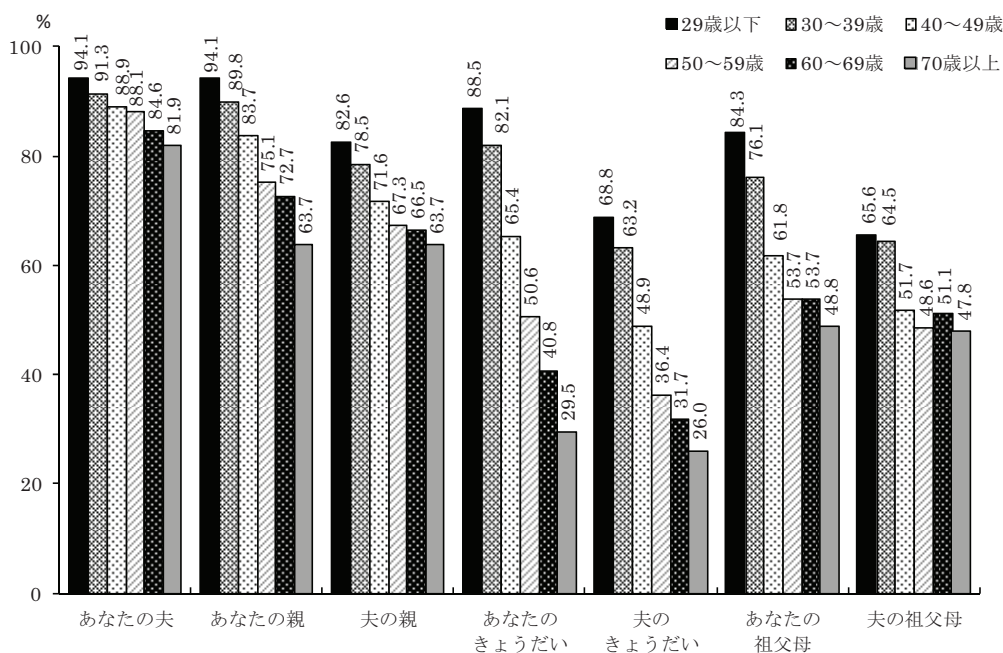


図14-3 妻の年齢別にみた各親族を「同居・別居にかかわらず家族である」と回答する割合(子ども、子の配偶者、孫)(第5回調査)

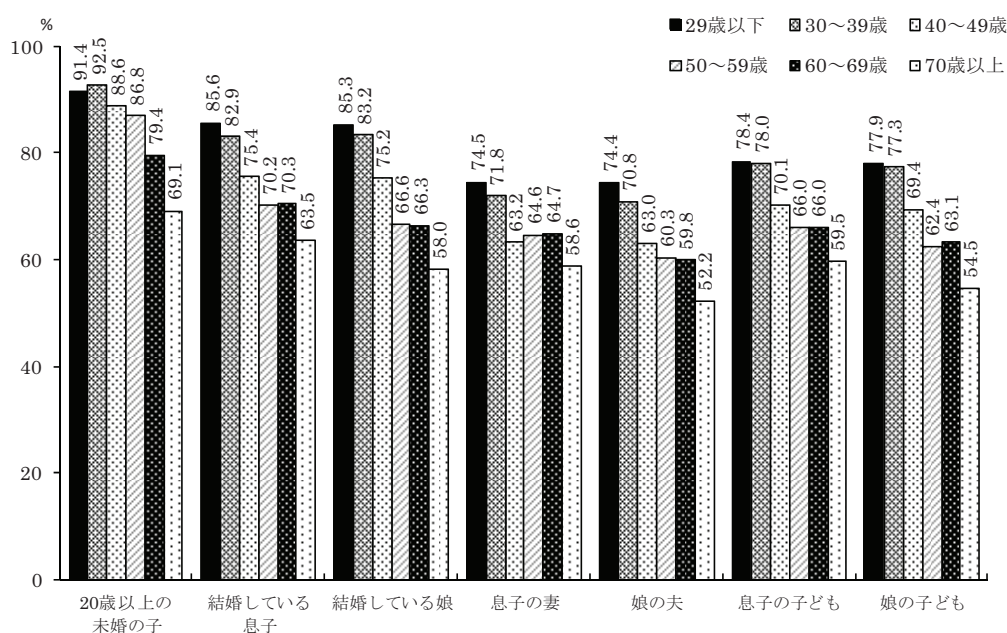


図 14-2 で年齢による違いがもっとも明瞭なのは「あなたのきょうだい」と「夫のきょうだい」である。「あなたのきょうだい」の場合、70 歳代以上では 3 割 (29.5%)、60 歳代では 4 割 (40.8%)、50 歳代では 5 割 (50.6%)、40 歳代では 6 割台 (65.4%)、20 歳代と 30 歳代では 8 割台 (88.5%, 82.1%) で、70 歳代以上と 20~30 歳代では 60 ポイントもの開きがある。「夫のきょうだい」も同様に 70 歳代以上と 20~30 歳代では 40 ポイント以上の開きがあり、70 歳代以上では 26.0%、60 歳代と 50 歳代では 3 割台 (31.7%, 36.4%)、40 歳代では 4 割台 (48.9%)、30 歳代と 20 歳代では 6 割台 (63.2%, 68.8%) である。

「あなたの祖父母」と「あなたの親」についても、70 歳代以上と 20 歳代での差は 30 ポイントを超えている。「あなたの祖父母」については、最も高い 20 歳代で 84.3%、最も低い 70 歳代以上で 48.8%、両者の間には 35.5 ポイントの差がある。「あなたの親」については、割合が最も高い 20 歳代で 94.1%、最も低い 70 歳代以上で 63.7%、両者の間には 30.4 ポイントの差がある。「あなたの夫」や「夫の親」、「夫の祖父母」については年齢による違いが比較的小さいが、それでも 70 歳代以上と 20 歳代との間にはそれぞれ 12.3 ポイント、18.9 ポイント、17.8 ポイントの開きがある。

図 14-3 でも図 14-2 同様の傾向がみられ、年齢が上の妻の方が「同居・別居にかかわらず家族である」と考える割合は低い。特に 70 歳代以上は、50~60 歳代よりも低い傾向がみられる。70 歳代以上と 20 歳代での割合の差をみると、「結婚している娘」、「結婚している息子」、「娘の子ども」、「娘の夫」の場合は 20 ポイント以上あり、「息子の子ども」と「息子の妻」の場合も 15 ポイントを超える。

このうち「結婚している娘」については 70 歳代以上で 58.0%であるのに対し、50~60 歳代では 66%台、40 代では 75.2%、20~30 歳代では 8 割台 (85.3%, 85.3%) で、20 歳代と 70 歳代以上では 27.3 ポイントの差がある。「結婚している息子」の場合、20 歳代では 85.6%、50 歳代と 60 歳代で約 70%、70 歳代以上では 63.5%で、20 歳代と 70 歳代以上の差は 22.1 ポイントである。「結婚している息子」の方が、「結婚している娘」よりも「同居・別居にかかわらず家族である」と考える割合は高いが、年齢が若いほどその差は小さくなる。同様の傾向が、「息子の妻」と「娘の夫」についても、「息子の子ども」と「娘の子ども」についても観察される。

< 参考資料 >

図14-1 調査回別にみた、各親族に対する妻の家族認識の割合 (%)

親族	調査回	ケース数	同居・別居にかかわらず家族	同居していれば家族	同居していても家族とはいえない
あなたの夫	第5回	5,946	87.4	11.7	0.9
	第1回	5,505	44.5	49.1	6.4
あなたの親 <sup>1)</sup>	第2回	6,320	69.7	28.5	1.8
	第3回	6,518	67.8	30.4	1.8
	第4回	6,205	78.2	20.2	1.6
	第5回	5,725	78.4	19.5	2.1
	第1回	5,515	42.8	52.9	4.2
夫の親	第2回	6,303	64.8	32.7	2.5
	第3回	6,490	65.5	32.0	2.5
	第4回	6,153	71.2	25.7	3.2
	第5回	5,702	70.1	25.5	4.3
	第1回	5,457	25.7	48.7	25.6
あなたのきょうだい <sup>2)</sup>	第2回	6,177	38.6	45.9	15.4
	第3回	6,344	41.3	42.0	16.7
	第4回	6,099	51.1	36.6	12.4
	第5回	5,649	56.1	32.2	11.7
	第1回	5,453	20.0	52.5	27.5
夫のきょうだい	第2回	6,180	30.0	50.6	19.4
	第3回	6,292	35.0	45.8	19.2
	第4回	6,088	38.9	43.0	18.1
	第5回	5,640	42.7	38.2	19.1
	第1回	5,624	83.0	16.5	0.6
20歳以上の未婚の子	第2回	6,012	76.2	22.6	1.2
	第3回	6,302	77.8	20.9	1.3
	第4回	6,065	79.9	19.2	0.9
	第5回	5,578	84.5	14.8	0.7
	第1回	5,544	53.2	43.8	3.0
結婚している息子 <sup>3)</sup>	第2回	5,866	59.5	36.2	4.3
	第3回	6,212	63.7	32.5	3.8
	第4回	5,973	68.6	27.5	3.9
	第5回	5,453	73.2	23.9	2.9
	第1回	5,477	35.0	45.9	19.2
結婚している娘 <sup>4)</sup>	第2回	5,881	55.1	38.3	6.6
	第3回	6,194	60.6	34.0	5.5
	第4回	5,973	66.2	28.5	5.3
	第5回	5,295	71.0	24.6	4.4
	第1回	5,538	51.0	46.4	2.6
息子の妻 <sup>5)</sup>	第2回	5,819	54.2	42.0	3.8
	第3回	6,160	58.8	37.6	3.6
	第4回	5,705	63.8	33.2	3.0
	第5回	5,208	65.2	31.3	3.5
	第1回	5,479	31.8	51.3	16.8
娘の夫	第2回	5,824	49.6	44.5	5.9
	第3回	6,147	55.4	39.6	5.0
	第4回	5,701	60.1	35.7	4.1
	第5回	5,211	62.2	32.9	4.9
	第1回	5,507	51.0	46.6	2.4
息子の子ども <sup>6)</sup>	第2回	5,801	54.5	42.1	3.4
	第3回	6,143	59.2	37.9	2.9
	第4回	5,678	65.1	32.7	2.1
	第5回	5,192	68.7	28.5	2.8
	第1回	5,458	33.2	50.7	16.1
娘の子ども <sup>7)</sup>	第2回	5,803	51.0	43.8	5.2
	第3回	6,121	56.3	39.6	4.1
	第4回	5,677	62.3	34.5	3.2
	第5回	5,207	66.3	30.0	3.7



図14-1 調査回別にみた、各親族に対する妻の家族認識の割合(つづき) (%)

親族	調査回	ケース数	同居・別居にかかわらず家族	同居していれば家族	同居していても家族とはいえない
あなたの祖父母	第1回	5,385	29.3	61.0	9.7
	第2回	5,947	43.3	52.6	4.1
	第3回	6,162	45.0	50.2	4.9
	第4回	5,710	56.7	40.2	3.1
	第5回	5,273	60.1	36.6	3.3
夫の祖父母	第1回	5,389	29.1	63.3	7.6
	第2回	5,943	40.2	55.3	4.5
	第3回	6,172	43.1	52.1	4.8
	第4回	5,704	51.3	44.1	4.5
	第5回	5,272	53.1	41.0	5.8

注1) 第3回調査では「あなた(妻)の親」。  
 注2) 第3回調査では「あなた(妻)のきょうだい」。  
 注3) 第1回調査では「結婚している長男」。  
 注4) 第1回調査では「結婚して姓が変わった娘」。  
 注5) 第1回調査では「長男の妻」。  
 注6) 第1回調査では「長男の子ども」。  
 注7) 第1回調査では「娘の子」。  
 注8) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならないことがある。

図14-2 妻の年齢別にみた各親族を「同居・別居にかかわらず家族である」と回答する割合(夫、親、きょうだい、祖父母)(第5回調査)

妻の年齢	あなたの夫		あなたの親		夫の親	
	ケース数	割合(%)	ケース数	割合(%)	ケース数	割合(%)
29歳以下	221	94.1	220	94.1	218	82.6
30～39歳	939	91.3	935	89.8	929	78.5
40～49歳	1,359	88.9	1,354	83.7	1,343	71.6
50～59歳	1,316	88.1	1,297	75.1	1,292	67.3
60～69歳	1,361	84.6	1,271	72.7	1,267	66.5
70歳以上	750	81.9	648	63.7	653	63.7

妻の年齢	あなたのきょうだい		夫のきょうだい		あなたの祖父母		夫の祖父母	
	ケース数	割合(%)	ケース数	割合(%)	ケース数	割合(%)	ケース数	割合(%)
29歳以下	218	88.5	218	68.8	210	84.3	209	65.6
30～39歳	922	82.1	918	63.2	883	76.1	876	64.5
40～49歳	1,328	65.4	1,327	48.9	1,266	61.8	1,266	51.7
50～59歳	1,272	50.6	1,273	36.4	1,201	53.7	1,207	48.6
60～69歳	1,265	40.8	1,257	31.7	1,147	53.7	1,147	51.1
70歳以上	644	29.5	647	26.0	566	48.8	567	47.8

図14-3 妻の年齢別にみた各親族を「同居・別居にかかわらず家族である」と回答する割合(子ども、子の配偶者、孫)(第5回調査)

妻の年齢	20歳以上の未婚の子		結婚している息子		結婚している娘	
	ケース数	割合(%)	ケース数	割合(%)	ケース数	割合(%)
29歳以下	209	91.4	208	85.6	204	85.3
30～39歳	871	92.5	860	82.9	852	83.2
40～49歳	1303	88.6	1269	75.4	1254	75.2
50～59歳	1277	86.8	1227	70.2	1192	66.6
60～69歳	1265	79.4	1245	70.3	1195	66.3
70歳以上	653	69.1	644	63.5	598	58.0

妻の年齢	息子の妻		娘の夫		息子の子ども		娘の子ども	
	ケース数	割合(%)	ケース数	割合(%)	ケース数	割合(%)	ケース数	割合(%)
29歳以下	204	74.5	203	74.4	204	78.4	204	77.9
30～39歳	848	71.8	845	70.8	849	78.0	844	77.3
40～49歳	1231	63.2	1234	63.0	1234	70.1	1237	69.4
50～59歳	1174	64.6	1182	60.3	1173	66.0	1177	62.4
60～69歳	1157	64.7	1170	59.8	1147	66.0	1165	63.1
70歳以上	594	58.6	577	52.2	585	59.5	580	54.5

## 15 章. 家族の要件に関する妻の意識

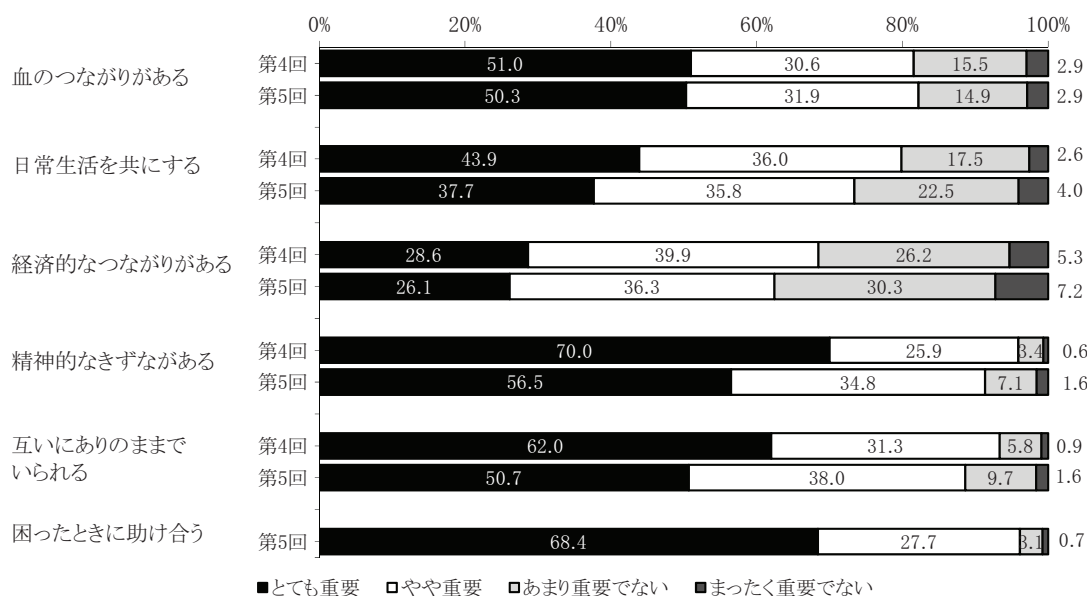
(釜野さおり)

家族であるための要件、つまり「家族」であるために必要なものについての考えを整理したのが表 15-1 である。各要件での「とても重要」の選択割合は、高い順に、「困ったときに助け合う」(68.4%)、「精神的なきずながある」(56.5%)、「互いにありのままでいられる」(50.7%)、「血のつながりがある」(50.3%)、「日常生活を共にする」(37.7%)、「経済的なつながりがある」(26.1%) である。「困ったときに助け合う」から「血のつながりがある」までは「とても重要」が5割を上回っているが、「日常生活を共にする」や「経済的なつながりがある」は2~3割台と比較的低い。第4回調査の結果と比べると(図 15-1)、「精神的なきずながある」が70.0%から56.5%、「互いにありのままでいられる」が62.0%から50.7%に減少した。

表 15-1 家族の各要件について「重要」と回答する割合(第5回調査)

家族であるための要件	ケース数	重要		
		とても重要	やや重要	あまり重要でない
血のつながりがある	5,857	50.3%	31.9%	17.8%
日常生活を共にする	5,832	37.7%	35.8%	26.5%
経済的なつながりがある	5,802	26.1%	36.3%	37.6%
精神的なきずながある	5,806	56.5%	34.8%	8.7%
互いにありのままでいられる	5,821	50.7%	38.0%	11.3%
困ったときに助け合う	5,892	68.4%	27.7%	3.9%

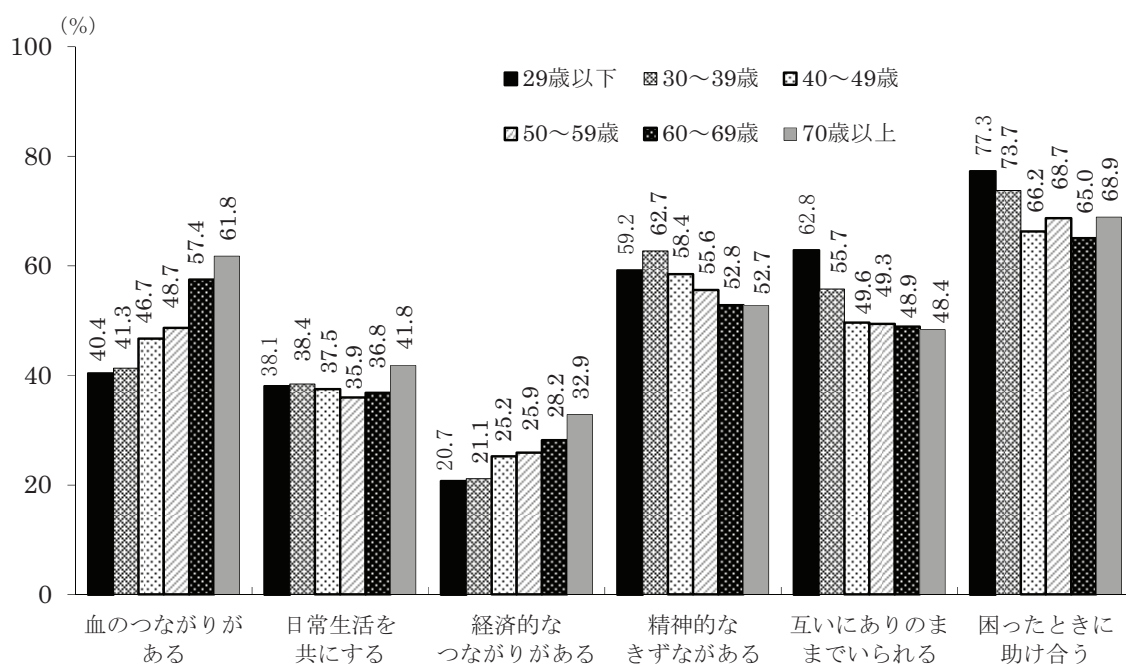
図 15-1 調査回別にみた家族の要件の重要度の認識割合



注) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

妻の年齢別に、それぞれの要件で「とても重要」と回答する割合をみると（図 15-2）、どの年齢でも割合が最も高いのは「困ったときに助け合う」である。「血のつながりがある」および「経済的なつながりがある」を「とても重要」と考える割合は年齢が上であるほど高い。「血のつながりがある」を「とても重要」と考える割合は20歳代と30歳代では4割（40.4%、41.3%）、40歳代と50歳代では4割台後半（46.7%、48.7%）、60歳代では57.4%、70歳代以上では61.8%で、20～30歳代と70歳代以上との開きは20ポイント程度である。「経済的なつながりがある」の方は年齢による差がやや小さく、70歳代以上では32.9%、60歳代以下では2割台である。「日常生活を共にする」を「とても重要」と考える割合は70歳代以上では4割、60歳代以下では35～38%で、年齢による差はほとんどない。「精神的なきずながある」「互いにありのままにいられる」「困ったときに助け合う」については、概ね年齢が低い方が「とても重要」と考える割合が高い。「互いにありのままにいられる」は、20歳代で最も高く62.8%、次いで30歳代では55.7%、40歳代以上は5割弱である。「困ったときには助け合う」も、20歳代と30歳代では7割台（77.3%、73.7%）、40歳代以降では6割台である。

図 15-2 妻の年齢別にみた各要件を「とても重要」と回答する割合（第5回調査）



<参考資料>

図15-1 調査回別にみた家族の要件の重要度の認識割合

(%)

家族の要件	調査回	ケース数	とても重要	やや重要	あまり重要でない	まったく重要でない
血のつながりがある	第4回	6,299	51.0	30.6	15.5	2.9
	第5回	5,857	50.3	31.9	14.9	2.9
日常生活を共にする	第4回	6,280	43.9	36.0	17.5	2.6
	第5回	5,832	37.7	35.8	22.5	4.0
経済的なつながりがある	第4回	6,251	28.6	39.9	26.2	5.3
	第5回	5,802	26.1	36.3	30.3	7.2
精神的なきずながある	第4回	6,292	70.0	25.9	3.4	0.6
	第5回	5,806	56.5	34.8	7.1	1.6
互いにありのままにいられる	第4回	6,287	62.0	31.3	5.8	0.9
	第5回	5,821	50.7	38.0	9.7	1.6
困ったときに助け合う	第5回	5,892	68.4	27.7	3.1	0.7

注) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図15-2 妻の年齢別にみた各要件を「とても重要」と回答する割合(第5回調査)

妻の年齢	血のつながりがある		日常生活を共にする		経済的なつながりがある		精神的なきずながある		互いにありのままにいられる		困ったときに助け合う	
	ケース数	割合(%)	ケース数	割合(%)	ケース数	割合(%)	ケース数	割合(%)	ケース数	割合(%)	ケース数	割合(%)
29歳以下	218	40.4	218	38.1	217	20.7	218	59.2	218	62.8	220	77.3
30～39歳	930	41.3	930	38.4	924	21.1	925	62.7	932	55.7	936	73.7
40～49歳	1,353	46.7	1,351	37.5	1,346	25.2	1,350	58.4	1,351	49.6	1,354	66.2
50～59歳	1,307	48.7	1,306	35.9	1,303	25.9	1,296	55.6	1,299	49.3	1,308	68.7
60～69歳	1,337	57.4	1,322	36.8	1,321	28.2	1,321	52.8	1,324	48.9	1,347	65.0
70歳以上	712	61.8	705	41.8	691	32.9	696	52.7	697	48.4	727	68.9

## 16章. 家族のはたらきに関する妻の意識

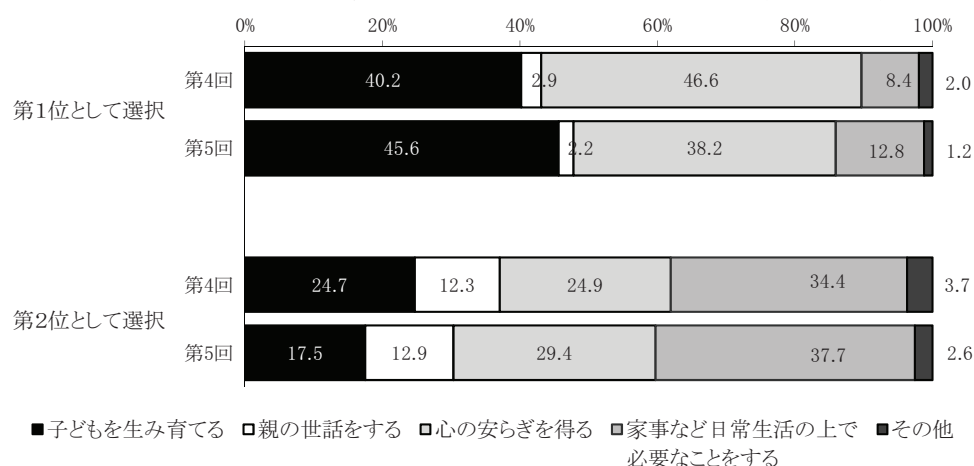
(釜野さおり)

なにを家族のはたらきとして考えているかについて整理したのが図 16-1 である。「子どもを生き育てる」「親の世話をする」「心の安らぎを得る」「家事など日常生活の上で必要なことをする」の中から、重要だと思うものを順に2つまで選択する方法でたずねた。

第5回調査で第1位として選択された割合が最も高いのは「子どもを生き育てる」(45.6%)、次いで「心のやすらぎを得る」(38.2%)である。「家事など日常生活の上で必要なことをする」を第1位とするのは1割(12.8%)、「親の世話をする」は僅か2.2%である。

第2位をみると、「家事など日常生活の上で必要なことをする」(37.7%)、「心のやすらぎを得る」(29.4%)、「子どもを生き育てる」(17.5%)の順になっている。また、「親の世話をする」を選ぶ割合は第2位においても上記4項目のうちで最も低い、1割を超える(12.9%)。

図 16-1 調査回別、家族のはたらきの選択割合(第1位、第2位)



■子どもを生き育てる □親の世話をする □心の安らぎを得る □家事など日常生活の上で必要なことをする ■その他

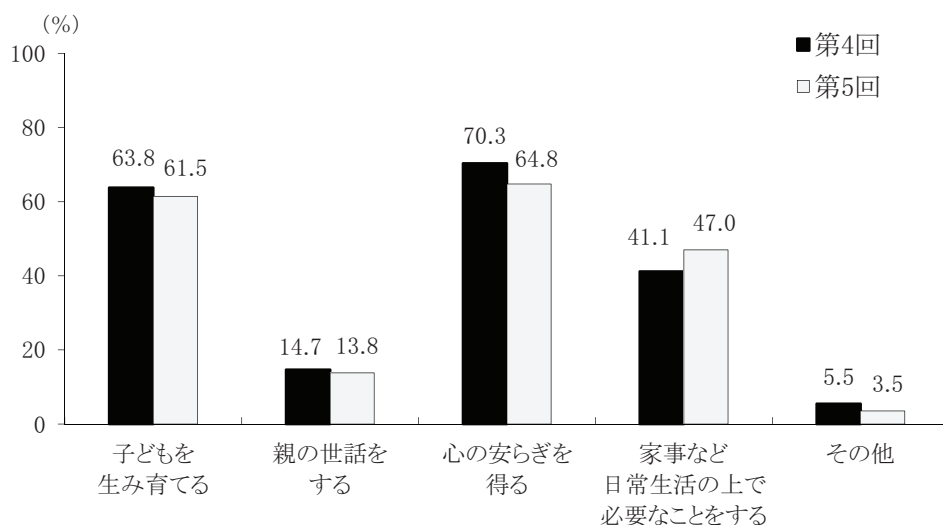
注) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

第4回調査と第5回調査の結果を比べると、第4回調査では第1位として選択された中で割合が高いのは「心の安らぎを得る」(46.6%)、「子どもを生き育てる」(40.2%)の順であり、両者の順位は第5回調査では逆転している。

それぞれのはたらきの項目について、第1位または第2位のどちらかで選ばれた割合をみると(図 16-2)、第4回調査でも第5回調査でも選択割合が最も高いのは「心の安らぎを得る」(70.3%, 64.8%)、次いで「子どもを生き育てる」(63.8%, 61.5%)である。

第5回調査について、家族のはたらきの第1位の選択割合を年齢別にみると(図 16-3)、60歳代と70歳代以上は半数以上(53.8%, 54.7%)が「子どもを生き育てる」で「心の安らぎを得る」は2割台(28.2%, 22.8%)であったが、50歳代以下では「心のやすらぎを得る」と「子どもを生き育てる」がいずれも4割台である。「家事など日常生活の上で必要なことをする」の選択割合は、年齢が上であるほど高い。またどの年代でも「親の世話をする」を選ぶのは3.0%以下である。第2位に挙げられるのはどの年齢層でも「家事など日常生活に必要なことをする」が一番多い。

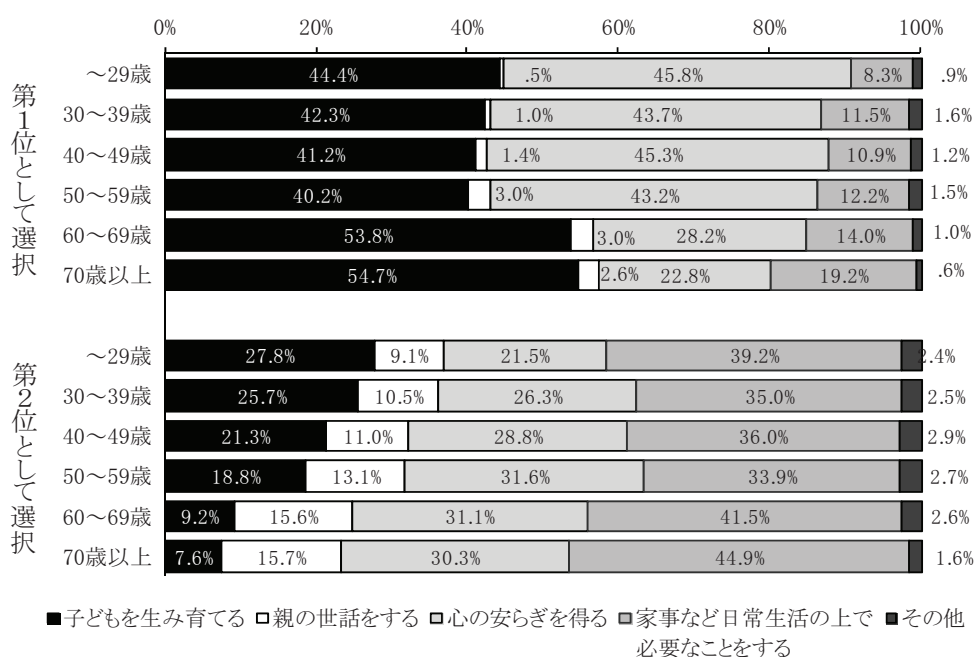
図 16-2 調査回別、家族のはたらき別、第 1 位または第 2 位に選択された割合



注) 少なくとも第 1 位に回答した人を対象として集計した。

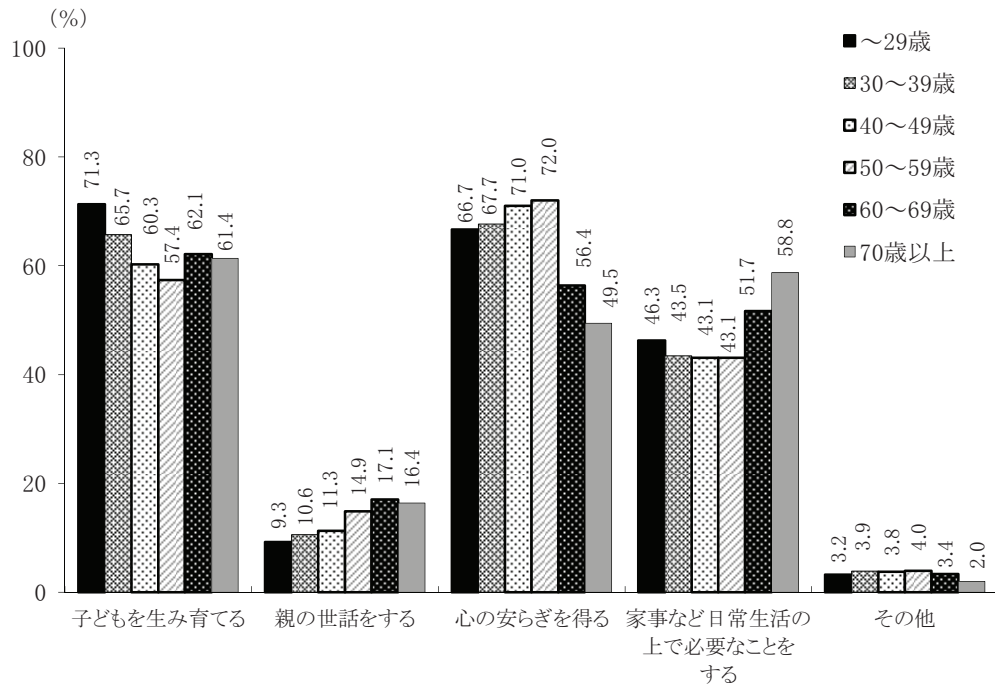
第 5 回調査で第 1 位または第 2 位のいずれかで選ばれている割合をみると、「子どもを生み育てる」は、20 歳代と 30 歳代がそれぞれ 71.3%、65.7%でやや高めで、40 歳代以上では 6 割前後 (60.3%、57.4%、62.1%、61.4%) である (図 16-4)。「親の世話をする」を選ぶ割合はおおむね年齢が上であるほど高く、20 歳代では 9.3%であるが、60 歳代では 17.1%、70 歳代以上では 16.4%である。「心のやすらぎを得る」については、50 歳代までは年齢が上の方が、選択割合が高いが (20 歳代から順に 66.7%、67.7%、71.0%、72.0%)、60 歳代では 6 割未満 (56.4%)、70 歳代以上では 5 割 (49.5%) である。「家事など日常生活の上で必要なことをする」の選択割合は 60 歳代で 51.7%、70 歳代以上で 58.5%と比較的高く、50 歳代以下では 43~46%である。

図 16-3 妻の年齢別、第 1 位・第 2 位に選択された家族のはたらきの割合 (第 5 回調査)



注) 四捨五入の関係で割合の合計が 100 にならない場合がある。

図 16-4 妻の年齢別、家族のはたらき別、第1位または第2位に選択された割合（第5回調査）



注) 少なくとも第1位に回答した人を対象として集計した。

<参考資料>

図16-1 調査回別、家族のはたらきの選択割合(第1位、第2位) (%)

順位	調査回	ケース数	子どもを 生み育てる	親の世話をす る	心の安らぎを 得る	家事など日常生 活の上で必要な ことをする	その他
第1位	第4回	6,115	40.2	2.9	46.6	8.4	2.0
	第5回	5,660	45.6	2.2	38.2	12.8	1.2
第2位	第4回	5,831	24.7	12.3	24.9	34.4	3.7
	第5回	5,126	17.5	12.9	29.4	37.7	2.6

注) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図16-2 調査回別、家族のはたらき別、第1位または第2位に選択された割合 (%)

調査回	ケース数	子どもを 生み育てる	親の世話をす る	心の安らぎを 得る	家事など日常生 活の上で必要な ことをする	その他
第4回	6,115	63.8	14.7	70.3	41.1	5.5
第5回	5,660	61.5	13.8	64.8	47.0	3.5

注) 少なくとも第1位に回答した人を対象として集計した。

図16-3 妻の年齢別、第1位・第2位に選択された家族のはたらきの割合(第5回調査) (%)

順位	妻の年齢	ケース数	子どもを 生み育てる	親の世話をす る	心の安らぎを 得る	家事など日常生 活の上で必要な ことをする	その他
第1位	歳以下	216	44.4	0.5	45.8	8.3	0.9
	30～39歳	925	42.3	1.0	43.7	11.5	1.6
	40～49歳	1,321	41.2	1.4	45.3	10.9	1.2
	50～59歳	1,283	40.2	3.0	43.2	12.2	1.5
	60～69歳	1,270	53.8	3.0	28.2	14.0	1.0
	70歳以上	645	54.7	2.6	22.8	19.2	0.6
第2位	29歳以下	209	27.8	9.1	21.5	39.2	2.4
	30～39歳	845	25.7	10.5	26.3	35.0	2.5
	40～49歳	1,181	21.3	11.0	28.8	36.0	2.9
	50～59歳	1,172	18.8	13.1	31.6	33.9	2.7
	60～69歳	1,151	9.2	15.6	31.1	41.5	2.6
	70歳以上	568	7.6	15.7	30.3	44.9	1.6

注) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図16-4 妻の年齢別、家族のはたらき別、第1位または第2位に選択された割合(第5回調査) (%)

妻の年齢	ケース数	子どもを 生み育てる	親の世話をす る	心の安らぎを 得る	家事など日常生 活の上で必要な ことをする	その他
29歳以下	216	71.3	9.3	66.7	46.3	3.2
30～39歳	925	65.7	10.6	67.7	43.5	3.9
40～49歳	1,321	60.3	11.3	71.0	43.1	3.8
50～59歳	1,283	57.4	14.9	72.0	43.1	4.0
60～69歳	1,270	62.1	17.1	56.4	51.7	3.4
70歳以上	645	61.4	16.4	49.5	58.8	2.0

注) 少なくとも第1位に回答した人を対象として集計した。